

牛久：学校周辺に見る自然

第28号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月14日発行

＜ 動物のすみか ～ ④ 幼虫で冬を越すチョウたち ＞

こんにちは。9/27, 10/4にひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回はチョウとしては最も多い、幼虫で冬を越すなかまを紹介しましょう。



ヤマトシジミのめす(左上下)とおす(右上下)。羽を開くと、ハッキリ区別できる。幼虫は、カタバミの葉を食べる。

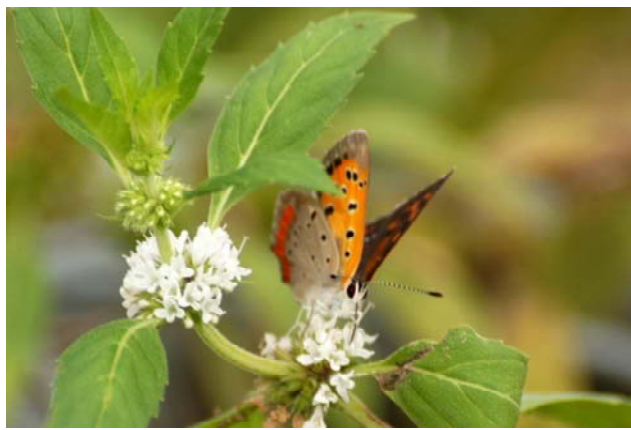
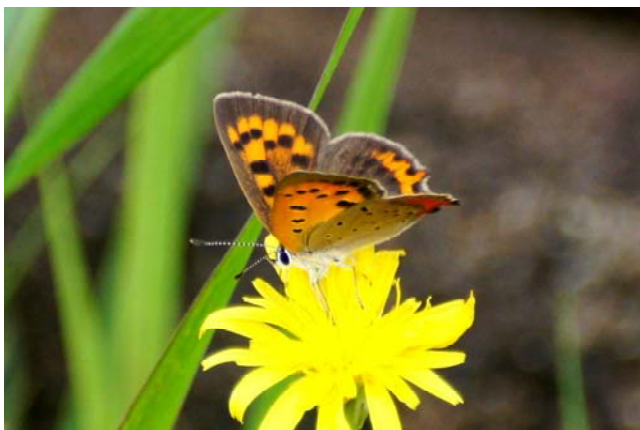


おなじみのヤマトシジミですが、羽を閉じているとおすかめすか分かりません。でも開くとおすは青白色、めすは青い部分が少なく黒っぽく見えます。幼虫はカタバミの葉を食べ、これさえ生えていればどこでもよく見かけるチョウです。冬の間、幼虫はカタバミの根もとにもぐりこんでいて、暖かい日には出てきて葉を食べることもあります。カタバミの蜜を吸う、ヤマトシジミのおす。

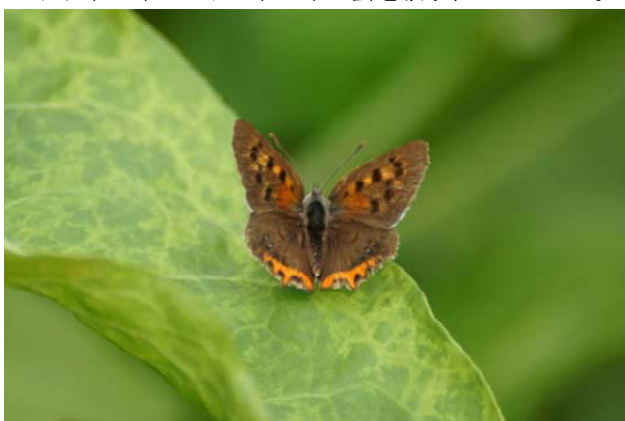


マルバハギの蜜を吸うツバメシジミ(左)と、産卵中のめす(右)。幼虫はハギなどマメ科植物の葉を食べる。

ツバメシジミは、みずべ公園ではマルバハギのまわりをよく飛んでいます。じつは幼虫が、ハギやシロツメクサなどマメ科植物の葉を食べるのです。



ブタナ(上左)とハッカ(上右)の蜜を吸う、ベニシジミ。下は、幼虫が食べるギシギシの葉にとまっていた。

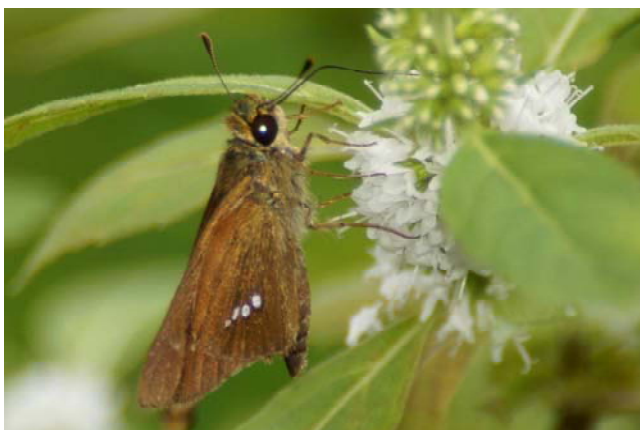


では、ベニシジミは？ いろいろな花で蜜を吸いますが、幼虫がギシギシやスイバなどの葉を食べるので、産卵が近づくとそれらの葉にとまっているのをよく見ます。どうやら、幼虫で冬を越すチョウは、交尾や産卵を楽にするためか、幼虫が葉を食べる植物に集まるように思えます。が、皆さんはどう思いますか？ どのチョウがどこにいたか記録し、まとめてみるとおもしろいかもしれませんね。



ところで皆さんが育てたモンシロチョウの幼虫は、アブラナ科植物の葉を食べますね。ではモンキチョウは？ じつは左の写真のムラサキツメクサなど、マメ科植物の葉を食べます。図鑑などで調べると出てくることばですが、チョウが産卵し、幼虫が食べる植物を「食草(しょくそう)」とよびます。
食草のムラサキツメクサの蜜を吸う、モンキチョウ。

イチモンジセセリもいろいろな花の蜜を吸いますが、幼虫はイネやチガヤなどイネ科植物の葉を食べます。チョウを探すときは、一つは咲いている花や熟した果実、樹液などその成虫が食料としているものを見つけることですが、もう一つは幼虫が食べる植物のまわりを探すのもよいですね。どこにいたのか、何をしていたかをしっかり観察し、記録しましょう。 【理科支援員:宮内】



ハッカ(左)とカタバミ(右)の蜜を吸うイチモンジセセリ。幼虫はイネ科植物の葉を食べるがいろいろな花の蜜を吸う。